



もいわ南麓

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月14日(月)に理科に関して、4月17日(木)に国語、数学に関して全国の中学3年生、小学6年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。すでに全国や各教育委員会でのまとめが公表されておりますが、このほど本校においても教科に関する調査(国語、数学、理科)の結果分析と改善の方向のまとめができましたので御報告いたします。この報告様式につきましては、札幌市教育委員会の指導のもとに作成しており、具体的な数値での公表ではなく以下の表現であることをお知らせいたします。



全国平均と比べ

「+3.1ポイント以上」	⇒ ◎上回っている
「全国平均～+3.0ポイント」	⇒ ○ほぼ同程度であるが、やや上回る
「全国平均(-0.1～+0.1)」	⇒ ・ほぼ同程度
「-3.0ポイント～全国平均」	⇒ ◎ほぼ同程度であるが、やや下回る
「-3.1ポイント以下」	⇒ ●下回っている

例) 【正答の割合(%)】

*全国平均72%・本校76%
+4ポイント⇒上回っている
*全国平均54%・本校52%
-2ポイント⇒ほぼ同程度であるがやや下回る

■【国語】におけるおおまかな概要■

分類		区分	調査結果の概要
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○ほぼ同程度であるが、やや上回る
		(2) 情報の扱い方に関する事項	対象となる問題の出題なし
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	対象となる問題の出題なし
評価の観点	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	●下回っている
		B 書くこと	●下回っている
		C 読むこと	○ほぼ同程度であるが、やや上回る
問題形式	知識・技能	知識・技能	○ほぼ同程度であるが、やや上回る
		思考・判断・表現	●下回っている
		選択式	○ほぼ同程度であるが、やや上回る
本校の傾向	問題形式	短答式	●下回っている
		記述式	●下回っている

本校の傾向
 ・学習指導要領の内容別に見ると、「知識及び技能」については、全国平均をやや上回っている反面、「思考力、判断力、表現力等」については、全国平均を下回る傾向があることがわかります。
 ・評価の観点別に見ると、やはり、「知識・技能」については、全国平均をやや上回っているものの、「思考・判断・表現」が全国平均を下回っています。
 ・問題形式別に見ると、選択式がやや得意であるものの、短答式と記述式で全国平均を下回っています。

▼今回の調査における課題と改善の方向▼

生徒質問紙調査の中で、**国語の学習に関する質問に対して、ほとんどの項目で全国平均より肯定的な回答の割合が高く、意欲的に国語の学習に取り組んでいる姿が伺えますが、「国語の勉強は得意ですか」という質問事項に対しては全国平均と同様に中間的な回答の割合が高い結果になりました。**

今年度の国語の結果については「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること」や「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くこと」ことに関する問題に課題がありました。「描写をもとに適切な表現を選択したり、文法や表現技法といった知識を身に付け、意見と根拠を明確にして表現すること」に関して、丁寧に取り組んでいく必要があると考えています。

■【数学】におけるおおまかな概要 ■

分類	区分	調査結果の概要
学習指導要領の領域	A 数と式	◎上回っている
	B 図形	●下回っている
	C 関数	●下回っている
	D データの活用	●下回っている
評価の観点	知識・技能	○ほぼ同程度であるが、やや上回る
	思考・判断・表現	◎ほぼ同程度であるが、やや下回る
問題形式	選択式	◎上回っている
	短答式	●下回っている
	記述式	●下回っている

- 本校の傾向**
- ・学習指導要領の領域別に見ると、A「数と式」が全国平均を上回った一方、B「図形」とC「関数」とD「データの活用」で全国平均を下回っています。
 - ・評価の観点別に見ると、「知識・技能」が全国平均をやや上回っている一方で、「思考・判断・表現」が全国平均をやや下回っています。
 - ・問題形式別に見ると、「選択式」の問題において全国平均を上回っている一方、「短答式」及び「記述式」の問題が全国平均を下回っています。

▼今回の調査における課題と改善の方向▼

生徒質問紙調査の中で、数学の学習に関する質問に対して、「**数学は大切であり、社会に出てから役に立つ**」という項目に関して、**肯定的な回答の割合が高い**結果が出ている一方で、**数学の勉強が好きではない、得意ではない**という回答の割合も**高い結果**となっています。また解き方がよく分からないときにあきらめずにいろいろな方法を考えると回答した割合が全国平均よりも低い結果が出ており「**数学の大切さは理解しているが、十分に理解できない、粘り強く取り組めない**」という姿が伺えます。

今年度の数学の結果については「図形」と「関数」、「データの活用」に関する問題に課題がありました。また、「数と式」に関しては、素数を選ぶことについては得意であるものの、目的に応じて式を変形させたり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについては課題があることがわかります。「**理由の説明や、ある事柄を筋道を立てて証明すること**」、「**関数とグラフの関係についての理解と、事象に即して関数を用いること**」、「**与えられたデータを正しく整理し、比較すること**」に関して、丁寧に取り組んでいく必要があると考えています。



■【理科】は国語・数学と実施形式が違うので本校の傾向と課題改善の方向性を表記します ■

本校の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・IRTバンド(項目反応理論)の集計値は、全国平均と比較して、5段階で2や3の割合が高い結果が出ています。 ・「粒子」を柱とする領域の「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できること」について全国平均を下回っている一方で、「元素を記号で表す知識や技能」については全国平均を上回っています。 ・「地球」を柱とする領域の「気圧について科学的に探究する場面において、探究の過程の見通しについて分析して、解釈すること」について全国平均を下回っています。
--------------	--

▼今回の調査における課題と改善の方向▼

生徒質問紙調査の中で、**理科の学習に関する質問に対して、全国平均より肯定的な回答の割合が高く、意欲的に理科の学習に取り組んでいる姿が伺えます。**特に「理科の勉強が好きである」「理科の授業で観察や実験をよく行っている」という質問事項は全国平均を十分に上回っています。しかし、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいか」という質問事項については全国平均を下回っていました。

今年度の理科の結果については、難易度の高い問題になると無回答率が全国平均に比べ高く、わからないと諦めてしまう傾向がやや見受けられます。**既存の知識を組み合わせ、未知の問題に応用する姿勢**を養っていく必要があると考えております。



IRTとは何か

IRTとは

IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

IRT(Item Response Theory : 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。



全国学力・学習状況調査にIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか	どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例	<p>5問/7問 (正答率71%) Aさん > Bさん</p>	<p>0.2 < 0.3 Aさん < Bさん</p>

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

■【生徒質問紙】におけるおおまかな概要 ■

◇「生徒質問紙」では、日常生活の全般的な事柄を聞いております。の選択肢は以下の通りです。

「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば当てはまる」「3. あまり当てはまらない」「4. 当てはまらない」

質問項目	肯定的回答(1+2) R6全国平均比	肯定的回答(1+2) R7全国平均比	「1.あてはまる」 R7全国平均比
①自分には、良いところがあると思いますか	約+4.3%	約+1.1%	約+7.8%
②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	約-6.3%	約±0%	約+5.8%
③困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	約-2.0%	約+4.4%	約+6.9%
④学校に行くのは楽しいと思いますか	約-1.5%	約+0.3%	約±0%
⑤友達関係に満足していますか	約-0.7%	約-0.1%	約-2.1%
⑥普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	約+2.3%	約-1.3%	約-2.7%
⑦自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	約-1.9%	約-2.5%	約+4.5%
⑧分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	約+0.2%	約-2.8%	約+1.7%
⑨1.2年生の時に受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器をどの程度使用しましたか(週1回以上)	約+6.5% (週1回以上)	約+2.2% (週1回以上)	約-14.9% (週3回以上)
⑩1.2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	約-12.6%	約-1.9%	約+0.5%
⑪1.2年生の時に受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	約-1.0%	約+4.2%	約+4.1%
⑫1.2年生の時に受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか	約-1.2%	約+1.3%	約+0.2%
⑬学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	約-0.9%	約-2.5%	約-3.6%
⑭先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	約+5.4%	約-2.2%	約+7.0%
⑮授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	約+1.5%	約+1.3%	約+10.8%
⑯あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	約+2.1%	約+6.0%	約+14.0%
⑰道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	約-0.5%	約+0.8%	約+5.7%

次の質問項目の選択肢は以下の通りです。

「3時間以上」「2時間以上」「1時間以上」「30分以上」「30分未満」「全くしない」

質問項目	「1時間以上」 R6全国平均比	「1時間以上」 R7全国平均比	「2時間以上」 全国比
⑱学校の授業時間以外に、普段（平日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（塾なども含む）	約+0.3%	約-5.3%	約-0.9%
⑲土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	約+12.5%	約-5.1%	約-2.4%

【生徒質問紙の結果から】

今年度の調査結果で全国平均に比べ+5%以上の結果となったのは、⑯⑱⑲の3つでした。「よりよい学級生活のためにお互いのよさを生かして解決方法を決めている」という項目は、全国平均より肯定的な回答の割合が高く、集団としての協調性を考える意識の高さや集団で問題解決に向かう気持ちが強いことを表しています。「平日や土日の勉強時間数」については全国平均よりも低い状態となりました。今回の調査で全国平均よりも下回っている事柄についての改善のためにも、今後は今以上に勉強に取り組んでいく必要があると考えます。

【昨年度の課題からの考察】

『自分の考えを相手に伝えるよう、工夫して発表（書く）する』

→質問⑩の結果から、依然としてこの点については課題があることがわかります。課題探究型の授業を中心に、「言語活動」の充実に努めていきたいと思えます。

『ICTの活用』

→質問⑨の結果から、ICTを活用した授業は実施されつつあるといえます。ただし、その頻度については課題が残り、授業におけるクロームブックの有効活用や、個別最適化のツールとしての活用がさらに求められていることがわかっています。

『主体的に学び（学習&自治活動）に取り組む生徒の育成』

→質問⑯～⑲の結果から、現3年生については学習に対して、自分の課題を認識できているけれど行動できていない傾向が見られます。また自治活動に対しては主体的に取り組む生徒が多いことがわかります。今後は学習に向き合って行動していけるような支援を充実させ、主体的に取り組んでいる部分についてはこの傾向がこれからも維持できるよう、これからも工夫を重ねながら取り組んでいきたいと思えます。

■【今後に向けて】…学校生活・学力向上への取組…■

◇本校における学ぶ力の育成に関しては『自らの学習を調整しながら計画的に取り組み、自分の意見を進んで発表できる生徒』を目指す生徒像として、以下のような項目を重点的に取り組んでおります。

①課題探究的な学習を取り入れた授業の工夫改善を図り、主体的に学習に取り組む姿勢の向上を目指す。
②GIGAスクールによるICT機器（クロームブック・実物投影機等）の積極的活用を推進する。
③言語活動を充実させ、論理的思考力の向上を目指す。
④スモールステップによる課題の提示と評価による、きめ細やかな指導を充実させ基礎・基本の定着を図る。
⑤「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用し、より良い学習習慣・生活習慣への情報発信を充実させる。

◇上記のような取組で「分かる、できる、楽しい授業」を目指し、生徒とのコミュニケーションを深めながら学習意欲の向上を図り、より一層生徒に寄り添った形の学習活動を展開することにより、学力の向上に努めていきたいと思っております。今回の調査結果を今後の学習指導や進路指導など、各学年の特質に合った指導に生かしていきたいと考えております。

◇学校では、今後も機会あるごとに保護者の皆様にとり組む趣旨を説明し、理解を深めていただけるように努めてまいりたいと思っております。御家庭におかれましても御協力をよろしくお願いいたします。



また、今回の学校だよりに関するお問い合わせは、教頭：伊藤 又は 担当：田牧 TEL 011-571-6039 までお願いいたします。



「文化祭」に関するお知らせ

10月3日(金)に予定されている「文化祭」の活動が9月19日(金)から本格化します。文化祭当日は給食がなく、バザーも実施していないため、**お弁当の持参**となります。また、保護者の観覧はできますが、**ステージ発表と合唱の観覧は体育館の観覧席に限りがあるため、お子様の学年のみの観覧**となります。また、大変な混雑が予想されますので、**展示装飾の観覧は、生徒が観覧する時間以外に観覧**するようお願いいたします。**お子様の御兄妹のみの来校は御遠慮いただき、必ず保護者様と一緒に行動する**ようお願いします。また、PTAで待合室の運営を行います。お時間がある方はぜひお立ち寄りください。多くのことをお願いとしてお伝えしておりますが、御協力をお願いいたします。

学校連絡アプリ「すぐーる」に関するお知らせ

「すぐーる」での連絡は、**朝の連絡は8時15分までに**お願いいたします。8時15分を過ぎても連絡は可能ですが、行き違いで欠席確認の御連絡をさし上げてしまう場合がございます。アプリでの入力は何日前でも、何時からでも可能です。早めの連絡に御協力をお願いいたします。

学校公開日の参観、ありがとうございました

9月3日(水)に実施された学校公開日への御参観、ありがとうございました。アンケートによる御意見を頂戴しておりますので、一部を御紹介いたします。なお、日程や回数に関しては、「妥当」とされる御意見が多数でした。

- ▶ 先生方や生徒たちの様子が見られて安心しました。ありがとうございました。
- ▶ 部活を見てみたい。
 - 部活動につきましては、放課後の時間ですので、御覧になりたい部活動の顧問に相談をしていただければと思います。活動の都合上、いつでもというわけにはまいりませんが、コロナ禍ではありませんのでご覧いただく事は可能です。